

# 大域的文化的システムの 再構成に関する資料学的研究

研究代表者 關尾史郎

## 1. プロジェクト内容概略

本プロジェクトは、超域研究機構に所属する同名のプロジェクトと共同しながら、ユーラシアを舞台とした越境的・重層的な文化交流のメカニズムを、出土資料や一次史料に依拠しながら解明することを目的として発足した。

## 2. 参加メンバー

研究代表者 關尾史郎（教授・東洋文化講座，超域研究機構兼務）

研究分担者 鈴木佳秀（教授・大学院現代社会文化研究科主担当，超域研究機構兼務）

荻美津夫（教授・地域基層文化講座，超域研究機構兼務）

矢田俊文（教授・日本文化講座，超域研究機構兼務）

山内志朗（教授・人間学講座，超域研究機構兼務）

原直史（助教授・日本文化講座，超域研究機構兼務）

白石典之（助教授・環日本海社会環境論講座，超域研究機構兼務）

山内民博（助教授・環日本海社会環境論講座，超域研究機構兼務）

高橋秀樹（助教授・ヨーロッパ文化講座，超域研究機構兼務）

## 3. プロジェクトの進捗状況

### 1) 例会・シンポジウム

超域研究機構のプロジェクトと合同で、以下のような研究例会を開催した。

① 2004年7月27日

山内志朗「西洋13世紀における文化移入の問題」

② 2004年9月27日

高橋秀樹「古代環地中海地域の東部における文化交流の一側面」

③ 2004年11月16日

矢田俊文「地震研究と中世資料論」

④ 2005年3月4日

岩本篤志（大学院現代社会文化研究科助手）

「北朝隋唐期の貴石印章とその用途－ソグド人・ササン朝との関係をめぐって－」

①と②は、ヨーロッパ世界の成立・展開に対する、西アジアや北アフリカの文化的な影響を高く評価し、④は、東アジアに及んだ西アジア、さらには地中海世界に起源を有する文化事例の紹介であった。また③では、中越地震をふまえながら、資料と自然災害の関係が論じられた。またこれ以外にも、以下のようなシンポジウムを共催・後援した。

⑤ 2004年10月31日

シンポジウム「市町村合併と公文書保存」（新潟史学会と共催）

⑥ 2005年2月12日

シンポジウム「新潟県中越地震からの文化遺産の救出と現状」（人文学部附属地域文化連携センター主催）

原直史「新潟歴史資料救済ネットワークの取り組み」

⑤・⑥とも、研究の素材としての資料の保存・保護とその現状に関わるシンポジウムで、とくに⑥では、我々自身の取り組みについて報告を行った。

## 2) 学術論文など刊行物

① 關尾史郎・岩本篤志編

『新潟大学大域プロジェクト研究資料叢刊6 トウルファン出土「五胡」時代漢文文書 俗字データベース』、新潟大学超域研究機構、2005年3月。

② 關尾史郎編『同上7 中国西北地域出土鎮墓文集成（稿）』、新潟大学超域研究機構、2005年3月。

③ 矢田俊文・相沢央編『同上4 新撰越後国年代記』、新潟大学超域研究機構、2005年3月。

④ 矢田俊文・福原圭一・片桐明彦編『同上5 上杉家分限帳－越後・会

津・米沢-』, 新潟大学超域研究機構, 2005年3月。

①・②は、いわゆるシルクロード沿線の出土資料の一覧など工具書であり、まさにユーラシア規模での越境的な文化交流研究に基礎データを提供する成果である。また③・④は、中世・近世の越後に関わる資料集であり、越後を中心とした地域の社会・文化に関する貴重な成果である。ほかに個別論文として、以下の4点がある。

⑤ 關尾史郎「トゥルファン将来, 「五胡」時代契約文書簡介補訂-張伝璽「關於香港新見 吐魯番契券的一些問題」を読む-」, 『西北出土文献研究』第2号:70-75頁, 2005年3月。

⑥ 關尾史郎「翟疆をめぐる断章-『吐魯番出土文書』劄記(12)-」(中), 『資料学研究』第2号:左25-36頁, 2005年3月。

⑦ 矢田俊文「近世前期における米沢藩の修史事業と山吉家」, 『資料学研究』第2号:1-11頁, 2005年3月。

⑧ 山内民博「19世紀朝鮮の巫夫と巫女-慶尚道安義県戸籍大帳の分析から-」, 『資料学研究』第2号:左1-24頁, 2005年3月。

\* 大域プロジェクト研究資料叢刊の①~④, および⑥~⑧が掲載された『資料学研究』第2号の印刷・発行は、平成16年度新潟大学研究プロジェクト推進経費(助成研究)によっている。

### 3) その他

2004年10月23日に発生した新潟県中越地震に際しては、本プロジェクトのテーマの一部でもある資料の保護という立場から、矢田や原を中心にして、いち早く積極的に関与することになった。またその関連の学会への出席・報告などの実績も残している。引き続きこの問題については、長期的な視点に立って活動を行っていきたい。